

同和問題

シリーズ

▶ 316

反差別・人権 私の生き方

第七期鳥取市解放大学 前期日程を終えて

づくり」を目指して、一年目の前期課程を修了しました。

受講生のみなさんは、前期過程で学ばれたことをレポートにまとめ、後期課程も新たな気持ちで差別問題を学ぶ決意をされています。

受講生のレポートより

私自身が結婚するにあたって、相手の兄弟の配偶者が差別部落出身であることから大反対にあった。

私の両親は、はじめに親同士で結婚の同意をしたにもかかわらず、そのことに我慢できなかつたのか、相手の家に「この話はなかつたことしめてくれ」と断りに行ってしまった。

私の怒りは爆発した。私は自分の両親に対し不信感を覚えると同時に、身内の差別意識の解消に限界を感じた。私は、この時点で家を出た。家を

いろいろあったが、最後は両親揃っての結婚式を挙げる事ができた。両親は、私の結婚について、「もう何を言ってもだめだ。しかたがない」と、諦めたのであろう。

私は、部落差別を理由とした結婚の反対に対して、最初は「結婚は本人同士の問題。人間性を見てくれ」と説得していたが、ついには「相手の兄弟配偶者が差別部落の出身であったとしても、家自体は差別部落ではないのだから」と言っていた。今思えば結婚したい一心で自分の都合の良い言い訳をしていたのだと思う。卑怯な人間であったと思う。でも、その当時はこう言うしかなかった。

私は、人を見下したり差別することは嫌いだ。人は皆自立し、公平・平等であるべきだと思う。しかし、私の中に差別部落に対する差別する心があるといわざるをえない

それは、「相手の家自体は差別部落ではないのだから」の言葉に表れていると思う。部落差別の根深さを知ると同時に、自分自身の中にある心の原因は、「自分の都合であった。公平・平等は、自分の都合」ではなく、「誰に対しても変わらないもの」として存在しなければならぬ。私は、私なりに部落差別に對し怒りを持っている。差別のない世の中を望んでいる。

解放大学で学んだこと。それは心を開き、自分をさらけ出すとともに、相手と同じ立場にはなれないが、相手の立場に立つて考えてみて、相手を理解することが、差別解消にとって大切だということだ。私は、解放大学で自分自身の差別体験をさらけ出すこと

ができた。本当に意義があったと思う。後期では、差別解消に向けて、自分に何ができるかを考えてみたい。

問い合わせ先 財団法人鳥取市人権情報センター (☎ 24-3125)

「人権講演会」のご案内

- ▷日時 2月21日(土) 午後1時30分～
- ▷場所 鳥取県民文化会館 第1会議室
- ▷内容 「人権ってなあに?」
- ▷講師 エンパワメント・センター 森田ゆりさん



問い合わせ先 財団法人 鳥取市人権情報センター (☎ 24-3125)



鳥取市解放大学の学習風景